

提案件名	ウェアラブルデバイスによるヘルス関連データの収集・分析	対象分野	ウェルネス
------	-----------------------------	------	-------

- 過疎地域では各種検査設備の整った大きい病院が少なく、診療所等での基本的な検査のみにとどまることが多い。また、高齢化の進む中山間地では、徐々に低下する終末期患者のQOLを如何に確保するかが重要な問題となっている。
- 遠隔診療は従来、単一の検査データ（バイタルデータや病理画像等）によるものが多かったが、医師は診察時間中、五感をフル稼働させ、患者の重症度（軽症に見えるが実は重大な病気が隠れている等）や終末期患者（高齢者や末期がん患者等）の生命予後等を診断している。ウェアラブルデバイスに実装された様々な高精細センサーにより、単なるバイタルデータに限らず、皮膚の湿度や声の調子など「その場の雰囲気」に近いデータまでも収集し、5Gでクラウドに送信。AIで分析することにより、新しい遠隔診療の実証実験を行う。

<CASE 1>



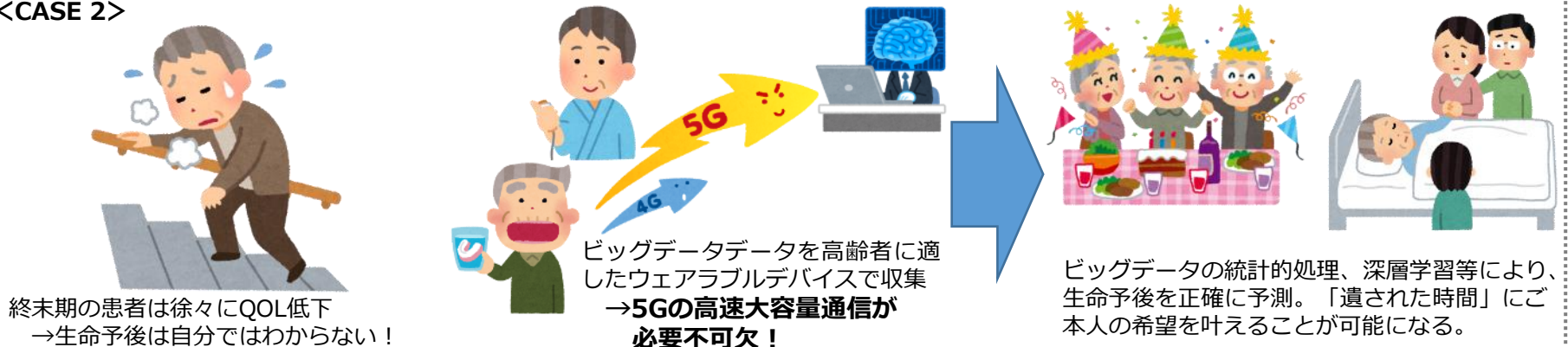
過疎地域でも大勢いる体調不良の患者さん。地元の診療所でできる検査は限られているが、全員を大病院に送って精密検査するには時間もコストもかかりすぎる！

体温、皮膚湿度、声の調子等、単一のバイタルデータにとどまらない大量のデータをウェアラブルデバイスで収集

→5Gの高速大容量通信が必要不可欠！

クラウド上のAIがこの大量のデータを分析することによって、単なる遠隔診療にとどまらず、医師の「経験」「五感」「直観」を巧みに数値化する。

<CASE 2>



終末期の患者は徐々にQOL低下
→生命予後は自分ではわからない！

ビッグデータデータを高齢者に適したウェアラブルデバイスで収集

→5Gの高速大容量通信が必要不可欠！

ビッグデータの統計的処理、深層学習等により、生命予後を正確に予測。「遺された時間」にご本人の希望を叶えることが可能になる。